



本校の授業改善に向けた視点				
指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童の実態を適切に把握する。 ○ 国語科を中心に、言語活動を意識した思考力・判断力・表現力を育成する。 ○ 児童が意欲的に学習できる環境づくりと資料の精選を行う。 ○ 学力調査の結果や傾向、東京ミニマム、個に応じた指導に関する指導資料、東京ベーシックドリルなどを活用し、一人一人の実態に即した指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 行事の精選等を通して、ゆとりある授業時数を確保する。 ○ 個別指導日、学力補充教室等を活用して、補充学習に取り組む。 ○ 朝の自主学習時間において、漢字や計算等の基礎的な学習の反復を行い定着を図る。 ○ 学校関係者評価、保護者の評価を生かして、教育課程を編成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 校内研究を充実させ、教員の指導力向上を図る。 ○ 「全国学力・学習状況調査」や「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の結果等を活用しながら、授業改善推進プランの見直しと作成を行う。 ○ 「小中一貫教育」の取り組みを通して作成した課題改善カリキュラムを活用して、教育活動を計画、実施する。 ○ 若手教員育成のための研究授業および協議会を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 評価計画を踏まえた評価規準を作成する。 ○ 学校公開の設定と参観者アンケートにより、授業および学校教育活動についての外部評価を実施する。 ○ 児童による授業評価および意識調査を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生活科や総合的な学習の時間において、地域の人材を活用する。 ○ 学校評議員との連携により、学校改善を推進する。 ○ 青少年育成委員等の地域の方々を招いて道徳授業地区公開講座を開催するとともに、児童の健全育成のための協議会を実施する。